

全国福祉保育労働組合東京地方本部
執行委員長 佐々木 和子 様

「東京都知事選挙立候補者のみなさんへの質問」への回答について

鳥越 俊太郎

1 保育所待機児童対策についてどのような対策を考えていますか？

A. 「住んでよし」の東京の実現のため、まずは、保育所の待機児童数を解消しなければなりません。私自身、孫の保育所が決まらず、妻が一時期預かっていた経験もあります。日本の将来のため、政治がしっかりリーダーシップを発揮しなければなりません。

潜在的な保育需要や子育て世帯の流入などの実態を捉えた調査を行うとともに、保育の実施主体である区市町村に対して、小中学校や公共施設への併設や、都市公園への保育所設置の推進、マンション新設時に保育所を併設するルールの検討など、あらゆる対策を講じて支援していくことが重要だと考えています

2 保育施設や介護施設で重大事故が多発しています。民間企業の福祉参入による競争や規制緩和との関係性についてどのように考えますか？

A. 保育・介護施設の責任者や、保育士、介護福祉士、ケアマネージャーなどは、子どもや高齢者の命を預かる責任の重さがあります。その認識のもとで、施設の安全点検や病気・事故の予防や対応など重大事故の再発防止に取り組むべきと考えます。

また、教育・保育施設における重大事故の再発防止のための事後的検証委員会において、事故原因を分析、検証することで再発防止につなげます。介護施設においても、重大事故の再発防止を図り、入所者の生活環境の改善や介護サービスの質の向上が行われるよう、自治体と連携して取り組みます。

3 保育士、介護福祉士をはじめとする福祉専門職の人材確保が難しくなっています。人材難を解消するための政策をどのように考えていますか？

A. 保育士の確保と定着を進めるため、保育士の給与や処遇の改善を進め、保育の質を確保します。

介護人材の対策としては、介護事業所においてキャリアパス制度を導入する

支援を進め、職員の給与増のきっかけづくりを推進するとともに、介護福祉士やケアマネージャー、社会福祉士などの資格取得を促し、介護人材の質の向上や定着促進を図ります。

さらに、国に対して介護報酬を増やすよう求めます。こうして「住んでよし」「働いてよし」の東京を実現します。

4 貧困と格差の拡大が社会問題となっています。とりわけ子どもの貧困対策についてどのような政策を考えていますか？

A. 子どもの未来の可能性を否定しかねない子どもの貧困といわれる状況を一刻も早く改善するため、財政面を含めた公的支援を拡充する必要があると考えます。子どもたちが生まれ育った環境に左右されず、安心して教育を受けられるよう、私立及び公立高校を対象とした、新たな東京都版給付型奨学金を検討することが必要だと考えます。

また、様々な課題を抱える子供たちが安心して過ごせる居場所、子ども食堂などが都内に広がるよう、区市町村やNPOなど多くの皆さんとともに積極的に取り組んでいきます。「学んでよし」「住んでよし」の東京を実現していきます。

5 2025年に東京都は高齢社会のピークを迎えると言われていています。特別養護老人ホームの整備や在宅福祉の充実など、長期的な視野でどのような政策を考えていますか？

A. 高齢化が進む東京において、高齢者の皆さんの多様なニーズに応じた施設や住まいを確保していくことが必要と考えています。都の高齢者施設や住まいの目標値は、区市町村が地域の介護ニーズを踏まえて算定した入所者数見込みの合計数に基づくものですが、今後の都内における高齢化の状況を展望し、国の動向も見据え、検討し直すことも視野に入れていきます。また、在宅でも安心できる介護体制の整備を進めていきます。

私は聞く耳をもって、都民のさまざまな意見を聞き、高齢者福祉に関する政策に取り組むとともに、必要なことを国に求めていきたいと考えています。

以上